

教会短信

2018年12月2日

No. 78

牧師 間瀬 善彦

今年も早いもので、残りわずかになりました。わたしが楽しみに見ているNHKの大河ドラマ「西郷どん」も最終局面に近づいています。どのような形でこのドラマが最終回を迎えるのか、楽しみです！西郷隆盛は人から書を頼まれると、よく『敬天愛人』と書いたと言われていました。天を敬い、人を愛する、これは西郷がいつも自戒の念としてきたことでした。当時の武士社会では江戸幕府の政策として、儒教を生活の規範としていました。儒教で「天」と言いますと、人間の力を超えた大きな働きや力を指しますが、西郷の考えていた「天」とは、もっと具体的なものを考えていたようです。それは、聖書の神、キリスト教の神です。では、その神を、西郷はいつどこから学んだのでしょうか。ご存じのように、江戸時代は鎖国をしていました。西郷は聖書を見ることができなかつたはずですが、鎖国の期間は、1639年から1853年のペリー来航までの約215年間にわたりました。外国の圧力により日本の国は開国します。その後、西郷は中国語の漢訳聖書をどこかからか手に入れていたようです。明治になってから、西郷は同じ薩摩藩士の家を訪れ、聖書の内容を教えたという証言があるそうです。西郷は聖書を読むことによって、「天」とは、何か人間の力を超えたはつきりわからない存在ではなく、それは「聖書の神」であることに気づいたのです。

聖書にこのような話があります。ある人がイエスに神の教えの中で、何が一番大切な教えかを尋ねました。すると、イエスは「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」、「隣人を自分のように愛しなさい」と教え、この2つにまさる教えはないと言われました。神を愛すること、人を愛すること、つまり、『敬天愛人』が聖書の中で一番大切な教えなのです。西郷は、聖書を読むことによってこの大切な教えを学んでいたのです。

幕末、西郷の敵方となった人たちの多くが、西郷によって命を助けられました。鳥羽伏見の戦いで負傷し、新政府軍に捕えられた山本覚馬（新島襄の妻新島八重の兄）や坂本竜馬を暗殺したと言われる今井信郎（京都見廻組）も西郷による助命嘆願の働きにより死刑を免れています。また、戊辰戦争で最後まで新政府軍と戦った庄内藩に対して寛大な処置をしたことも有名です。降伏をする時、庄内藩主は死を覚悟していましたが、藩主はわずか2年の謹慎で許されています。このような情け深い振る舞いはいつどこから出たのでしょうか。西郷は、聖書から学んだ愛を、自ら実践しようとしたのではないのでしょうか。（参考、守部喜雅『西郷隆盛と聖書』）

経堂教会の歩みに感謝して

経堂教会に初めて来たのは2005年のことだ。過去に基督教系の大学を卒業したこともあり、また西洋への憧れから基督教に対しては肯定的な印象を持っていた。経堂教会に来る前は、専門学校時代、アルバイト中の時期だったが、ある教会（以下前の教会）に通った。

前の教会は今考えると聖書より、現世利益的な面が否めず、また信仰も外に見える部分が重視されたりして、涙の告白や感情的な証などが多くみられた。また聖職者との考えの違いもあり教会に行くのをやめてしまった。

その後就職をし、社会に出ると、教会や基督教が遠くなってしまった。しかし基督教への親近感はず変わらずであった。カトリックでなく、プロテスタントの教会に行こうという思いで見つけたのが経堂教会だった。別の教会で開かれた社会問題を考える集会で一緒になった方が経堂教会に通っているのだから、行ってみようとの思いになった。経堂は大学時代の教員の家があり、度々来ていた土地だけに土地勘があったことも選びの原因だった。すべては神の導きによるものだと分かったのは後のことだった。

経堂教会では、当時から間瀬牧師夫妻がおられた。その前は牧師が何回か変わるなど大変な時期もあったという。私も来た当初戸惑いもあったが、結果として選択してよかった。ご夫妻が福岡から来られたので、食べ物の味付けが違うとか、様々なことを知ったのは良い経験だった。私は関東以西には親族はいないが、バプテスト連盟が九州に大学や教会が多くあることから、西日本や九州の方とも知り合えたことがよかった。

しかし何よりの収穫は、祈りや信仰は外にひけらかすものでもない、神様と一人一人の関係だということだった。そして牧師はとくに聖書の学びと御言葉を重視し、派手な技巧避けることが評価できると思った。むろん意見や考えの違いもあるが、聖書の読み方考え方が着実にかえられた。牧師や各信徒の励ましもあったが、やはり私が十数年を越える期間教会に通う力は、神によるものであり人によるものでないこと、教会はサロンでないことであった。

洗礼を受け十年を越える。経堂教会に後からこられた方たちも少なくない。ただしその時思うことはマタイ20章16節の「あとのものが先になり、先の者があとになる」という聖句だ。教会はこのようにただ長く教会に通っているからえらいのではなく、新たな学びが新しい方々からできる場所でもある。今後もこの聖句に従い歩んでいきたい。同時に経堂教会がさらに主なる神により増し加えられることを祈り願いたい。

聖書を学ぶ会

- 牧師から詳しく聖書を学びます。
- 讃美歌も歌い楽しい会です。

毎週火曜日 午後1時30分～2時30分

聖書研究・祈り会

- 静かな夕べに聖書を学びます。
- 共に祈り合います。

毎週水曜日 午後7時30分～8時30分

教会学校（幼児科）

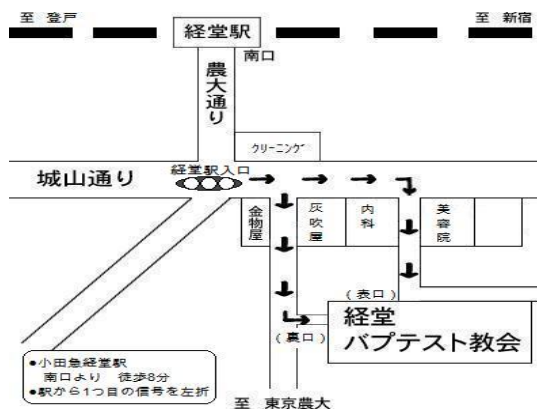
- かわいい讃美歌を歌って、聖書のやさしいお話を聞きます。お祈りもします。

毎週日曜日 午前10時～10時20分

教会学校（成人科）

- 礼拝の中で、牧師のお話を聞いて、感想や意見を述べ合います。わからないところは質問もできます。

毎週日曜日 礼拝後



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

※当教会はプロテスタント教会です。エホバの証人、モルモン教、統一協会などとは異なります。